

令和3年度 山梨県ふるさと納税

充当事業成果報告書



分野1 ふるさとの水 を育む 森林保全に関する取り組み

○県民緑化まつり事業

緑や森林に対する関心が高まる中で、緑をつくり・緑を育て・緑を守る意識を啓発するとともに、県民参加による緑づくりを行うことにより、うるおいと安らぎのある緑豊かな県土づくりを目指すため本県では「県民緑化まつり」を毎年開催しています。

令和3年5月15日(土)、はくばく文化ホール(富士川町)において、「恩賜林御下賜110周年記念 令和3年度県民緑化まつり」として、記念式典を開催し、富士川町平林地内(町有林22林班)にて記念植樹、富士川町小室地内(県有林124林班ろ1小班)にて記念造林を実施しました。行事には延べ244名が参加し、イロハモミジ300本、ヤマザクラ300本、ヤマボウシ300本、コハウチワカエデ300本、コブシ200本を植樹しました。



○松くい虫等総合対策事業

本県の観光地や景勝地等の景観を構成する大切な存在の一つであるアカマツ。このアカマツが枯れる原因となるマツノザイセンチュウの侵入、増殖を防ぐため、マツの幹に薬剤を注入(樹幹注入)し、松くい虫の被害を未然に防ぐための対策を行っています。

樹幹注入による予防事業は、昇仙峡(甲府市・甲斐市)、万力公園(山梨市)、塩の山(甲州市)、諏訪の森(富士吉田市)、剣丸尾(富士吉田市・富士河口湖町)において、延べ1,201本のアカマツを対象に実施しました。



○ニホンジカによる農林業被害等の防止

増加または生息域を拡大しているニホンジカについては、第二種特定鳥獣管理計画に基づき、適正な個体数調整により、農林業被害や生態系への影響を軽減するため、管理捕獲を実施しました。



○種苗林木育種事業

一粒の種子から芽生えた小さな苗木がやがて大きな木となり森が形づくられます。山梨の豊かな森の風景を未来に残し、また木材資源を絶え間なく生産する場として森を活用していくために、種子は欠くことのできない基本的存在です。

本県では、「小淵沢」（北杜市）、「切久保」（南部町）、「富士山」（富士吉田市）など6ヶ所に県が保有する採種園（優良な種子を採取する場所）のほか県内各地から採取した種子を、県内の苗木生産者の方へ供給しています。これら採種園の管理（下草刈り9.4haほか）や種子の採取（88.9kg）などを行いました。



○ナラ枯れ被害拡大防止事業

ナラ枯れは、体長5mm程度の甲虫であるカシノナガキクイムシがミズナラやコナラなどの幹に大量に侵入し、樹体内に持ち込まれたナラ菌の作用により樹木が集団的に枯死する現象で、この被害は全国的な広がりをみせています。

近年、本県においてもこの被害が発生しており、本県の森林景観や森林資源を集団枯損による影響から守るため、カシノナガキクイムシの駆除による被害対策に取り組んでいます。

ナラ類等の被害木2,143m³を対象に薬剤でのくん蒸処理や粘着シートを用いた捕獲による駆除を実施しました。



○やまなしの自然が育む水の魅力と育水の啓発事業

やまなし「水」ブランド戦略に基づき、健全な水循環を守り育てる「育水」を推進するため、環境教育イベントを開催しました。

また、山梨の「水」の魅力や「育水」を伝えるPRビデオをリニューアルし、談合坂サービスエリアや甲府駅などにあるデジタルサイネージ、YouTubeやTwitterなどのSNS、イベントなど複数の広報媒体を活用して情報発信を行い、山梨県の豊かで良質な「水」の魅力を全国にPRしました。



○自然公園美化推進事業

本県の山岳観光地である南アルプス地域（国立公園・県立自然公園）、八ヶ岳地域（国定公園）、秩父多摩甲斐地域（国立公園）を清浄な環境に保ち、自然景観を保護するため、自然公園内の登山道等の清掃及び整備活動、除草活動等に対して助成しました。



分野2 富士山の保全、環境美化に関する取り組み

○富士山世界遺産センター運営事業

富士山の顕著な普遍的価値の普及啓発及び保存管理の拠点である富士山世界遺産センターにおいて、企画展の開催、教育旅行の受入、富士山の総合学術調査研究の実施及び発表等を行い、世界遺産富士山の後世への継承に向けた取り組みが進みました。



分野3 ふるさとの青少年育成に関する取り組み

○若手研究者奨励事業費(大村智人材育成基金事業)

本県の産業振興や地域活性化を担う次代の優れた研究者の持続的な育成を図るため、自然科学分野8名(うち感染症関連2名)、人文・社会科学分野3名の若手研究者の研究を支援しました。



○山梨県立大学施設設備費補助金

山梨県立大学池田キャンパス本館・3号館の防水改修及び耐力強化工事を行い、学生や利用者が安心して過ごせる環境を整備しました。



○産業技術短期大学校等就学サポート事業

生活が困窮し経済的な不安を抱える学生も安心して職業能力開発施設で学び続けることができるように創設された給付型奨学金制度に基づき、経済的な不安を抱える学生に就学給付金を支給しました。

・支給実績

19人(支給額:7,157,000円)

○県立科学館の運営

県立科学館は、青少年をはじめとする県民の科学に対する関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育み、もって教育及び文化の発展に寄与するために設置された施設です。

施設では、サイエンスショーやプラネタリウムの上映のほか、科学を楽しみながら学ぶことのできる様々なイベントを行い、10万人を超える方にご利用いただきました。



○八ヶ岳少年自然の家の運営

県立八ヶ岳少年自然の家は、恵まれた自然の中で少年の豊かな情操を養うとともに、集団宿泊生活を通して自律、協同、友愛及び奉仕の尊さを体験的に学習させ、心身ともにたくましい少年を育成することを目的に設置された青少年教育施設です。

施設では、集団宿泊体験をはじめ、冒険ハイクや野外炊事、クラフト体験等、自然体験・生活体験・交流体験を効果的に実施し、延べ15,000人を超える方にご利用いただきました。

福

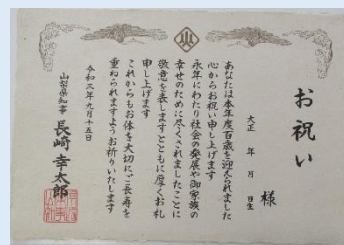
分野4 ふるさとの祉向上に関する取り組み分

○百歳長寿褒状贈呈事業

敬老思想の高揚を図るため、県内にお住まいで新たに100歳を迎えられるお年寄りと県内最高齢者に対し、例年、老人週間に併せて知事の褒状及び褒状入れを贈呈しています。

褒状は手漉き和紙、褒状入れは郡内織物と、贈呈品には県産品を使用しています。

382人のお年寄りに褒状を贈呈し、ご長寿をお祝いすることができました。



○子育て支援人材育成強化事業費

子育て支援関係者の資質向上と、地域における子育て支援の取り組みを促進し、地域全体で子育てを支援する子育て協働社会の構築を図るため、『子ども庁ってどんなところ？～私たちが期待することを山梨から発信～』と題して、国の担当者によるオンライン講演会等を開催しました。



○やまなし子育て応援事業費補助金

年収約640万円相当未満の世帯の第2子以降の保育料について、3歳になるまでの間、保育料を無料化し、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。

○産休・育休明け保育推進事業費補助金

1歳児を担当する保育士を加配している保育所等に対して支援を行い、親の産休・育休期間が終了した乳幼児の円滑な保育所入所を進めることによって、地域社会の要望に即応した保育体制を確立し、児童福祉の向上を図りました。



○産前産後ケアセンター利用費補助事業

安心して利用していただけるよう新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、延べ324組のお母さんとそのお子さんに、宿泊型産後ケアをご利用いただきました。

利用者へのアンケート調査でも、非常に高い満足度をいただいております。多くのお母さん方の子育てに対する不安軽減に役立っています。



分野5 高校**教**育の充実に関する取り組み

○工業系高校生基幹産業担い手育成事業

(事業の内容)

- ・企業実習（短期企業実習・先端企業実習・長期企業実習）
- ・企業技術者等による実践的授業
- ・基幹産業理解授業
- ・高等教育機関等との連携

(目標値および成果)

- ①工業系高校生の技能検定等国家資格取得の延べ人数割合70%
54.8%（前年比3.6%アップ）
- ②工業系高校生の県内企業就職内定率90%
84.7%（前年比0.2%アップ）
- ③関係機関で技術研修を受ける工業系高校生の割合17.6%
11.1%（前年比7.5%アップ）



本事業の実施において、需要費・報償費に活用しました。コロナ禍の厳しい状況で活動が困難ではありましたが、どの目標値も、前年度の数値を上回ることができました。

○公立高等学校等入学準備サポート事業費

高校生の就学に対する国の経済的支援に加え、県独自の給付金制度を創設し、経済的に余裕のない世帯の負担軽減を図りました。

・支給対象

高校への入学準備に必要な経費

①制服 ②体育着 ③上履き ④体育館履き

・支給額

一人50,000円

・支給実績

405人（支給額20,250千円）

○グローバル人材育成教育プログラム

令和3年度より、県立高校においてグローバル化に対応できる生徒を育成することを目的とした教育プログラムが本格的に開始されました。授業においてはICTを効果的に利活用しながら、質の高い探究的な学びが行われています。



○自ら学ぶ学校図書館活用事業

【事業の概要】

高等学校学習指導要領に示されている「生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動」の充実に資するため、学校図書館に学校図書館情報管理電算システムを導入し、各校の図書館情報管理（蔵書管理）と高等学校間の相互蔵書検索及び貸借を行いました。

また、学校図書館ガイドラインに示された学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の充実に資することによって授業での活用時数を増やし、学校の教育課程の展開に寄与しました。

【事業の成果】

全国的には、各校の図書館が独立したシステム（スタンドアロン型）を採用している自治体も多い中、本県では県立高等学校及びろう学校の図書データの共有によって学校間における相互貸借が可能のため、生徒の調べ学習の幅が拡大し、知的興味の喚起に利しています。

また、学校間での同種図書の購入に係る経費削減が見込まれ、各学校の特色や生徒の実態に応じた図書の購入、学校図書館の充実に繋がっています。

〈実績〉

県立高等学校間の貸出総数 1,522冊



○ジュニアアスリートトータルサポート事業

山梨国体や世界で活躍するトップアスリートの輩出を目指し、競技人口の増加と競技力の向上を図るため、ジュニア選手の発掘・育成事業を実施しました。

事業については、県内の各競技団体が主体となり、4月～2月までに感染症対策を講じた上で、競技団体毎に実施しました。

- ・ジュニア選手の発掘・育成に関する取り組み支援

発掘事業 21競技団体 延べ103回

育成練習会 27競技団体 延べ571回

- ・公認スポーツ指導者資格の取得支援

23競技団体 35人

上記事業の講師、指導者への謝金・旅費、会場費、参加者保険料等にかかる経費に対し助成しました。



○人と動物の共生社会推進事業

- ・ミルクボランティア

県に搬入される子猫の多くは、健康面、体力面で弱々しく、ミルクや排泄の介助が必要なため、新しい飼い主さんに直ちに譲渡することは困難です。

譲渡できる状態になるまで子猫の育成をお願いするミルクボランティア事業を実施し、活動支援として必要なミルク、ペットシート、哺乳器等の消耗品を支給しています。個人33名、団体2団体の登録をいただき、213匹の育成を委託し、189匹の譲渡へとつなげることができました。



- ・不妊・去勢手術助成制度補助金

県に搬入される猫のほとんどが、飼い主のいない猫から生まれた子猫です。また、飼い主のいない猫の無秩序な繁殖は、地域におけるふん尿や鳴き声など、環境問題にも関係しています。これらの問題への対策として、各市町村が実施している飼い主のいない猫への不妊・去勢手術の助成制度に対する補助金交付を行い、130匹の不妊手術、59匹の去勢手術に活用されました。



○愛宕山こどもの国再整備事業

愛宕山こどもの国については、令和5年度のリニューアルオープンに向けて再整備工事が進められています。令和3年度には既設遊具の撤去と園地造成が行われました。

令和4年度からは、いよいよ新しい遊具の設置工事が始まりました。



○富士山麓の不法投棄廃棄物撤去事業

・認定特定非営利活動法人富士山クラブが主体となり、4月～12月までに、感染症対策を行い、計5回撤去活動を実施しました。

・ボランティア計74人が参加、徹底的な分別・撤去を実施し、約500kgの廃棄物を処理しました。

・上記事業を実施したことで、不法投棄の未然防止の普及・啓発を図ることができました。



○富士山の独自で豊かな自然を次世代へ～外来植物から富士山を守りたい！～

富士山の豊かな自然を保全するため、御庭や五合目など計4箇所に防除マットを設置し、足裏に付着した外来植物の種子を富士山へ持ち込ませないための対策を実施しました。また、ボランティア指導講習会を開催し、外来植物の除去や活動の中心となるボランティアの育成を行いました。

○世界文化遺産景観整備支援事業

富士山周辺の世界文化遺産構成資産、緩衝地帯において、住宅等の外壁や屋根を景観の保全を目的として行う修景について、補助を行いました。県は市町村補助と併せて補助金を交付し、富士北麓の1市1村において、6件実施しました。例としては、富士吉田市上吉田の本町(ほんちょう)通り地区において、富士講の信者を迎え入れた「御師(おし)の住宅」と調和した茶色に、外壁や屋根の色を修景しました。

・補助対象

世界文化遺産構成資産、緩衝地帯の区域内及び当該区域の境界に隣接する地域内における建築物等の街並み景観に配慮した修景計画に係る工事費等

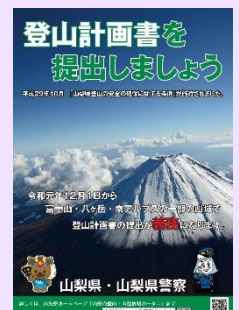
・補助額

1件 1,600千円以内(事業費 4,000千円以内)

住民自己負担 1/5以上

○安全登山推進事業費

富士山を始め多くの山を有する山梨県は、「山梨県登山の安全の確保に関する条例」を制定し、富士山・八ヶ岳・南アルプスの一部の山域における登山計画書の提出の義務化について、駅構内や路線バス等にポスターを掲示し、周知を図りました。



○山梨「ワイン県」推進強化事業

長引くコロナ禍で打撃を受けた「ワイン県やまなし」のワイナリーや飲食店等を盛り上げるため、テレビ・新聞・雑誌等の各種メディアを活用し、①及び②のテーマを主軸に全国に向けて情報発信しました。これにより、山梨ワインの魅力を掘り下げて紹介することができ、他産地との差別化を図るとともに、全国規模でのワイン県認知度向上に寄与することができました。

①90以上のワイナリーや地域による味わいの違い、ワイン造りを通じたSDGsの取り組みなどワイン県の「多様性」を打ち出すPR

②自然景観を眺めながらグランピングでワインを楽しむ、ジビエなど県産食材とのペアリングでワインを楽しむなど、他の観光資源と山梨ワインを絡めたPR



○南アルプスならではの観光商品開発

山梨県南アルプス地域に存在する観光資源の発掘・磨き上げを図るため、地域で活躍する地元の女性による商品開発チーム「MAGUCL（マグクル）」（Minami Alps Grade Up Creative Locals）を組織し、地域の特産品を磨き上げた四季折々の逸品と有名ソムリエが選定した県産酒をセットにした『Magucl Foods（マグクルフーズ）』と、地域で活躍する魅力的な「人々との出会い」、地域の豊かさを感じる「お土産」や「絶景」を堪能するオンラインツアー『南アルプスの雄大な自然の中で暮らす人を巡るローカルツアー』を開発しました。



成果報告書のお問い合わせ先について
〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1
山梨県総務部資産活用課 ふるさと納税推進担当
TEL：055-223-1314（直通）
E-Mail：shisan@pref.yamanashi.lg.jp
URL：https://www.pref.yamanashi.jp/furusato-tax/